



# 「若者が誰でも防災士になれる まち・なんこく」を目指して



高知県南国市危機管理課  
課長 野村 学

## 1 はじめに

「男もすなる日記というものを女もしてみんとてするなり」。この書き出しで始まる「土佐日記」を著した紀貫之が土佐の国衙（昔の役所、現在の南国市国府地区にあった）を旅立ってから千年あまりの時が経ちました。この間“土佐のまほろば”と呼ばれる南国市は、幾度もの「南海地震」を経験してきました。近年のものに限っても、1605年の慶長地震、1707年の宝永地震、1854年の安政南海地震、そして1946年の昭和南海地震。およそ100年から150年に一度という規則正しきで発生する南海地震の前回のときからすでに80年が経過しています。その南国市での取り組み「将来の地域防災リーダー育成事業」についてご紹介します。



南国市の位置図

## 2 事業実施の背景

「将来の地域防災リーダー育成事業」は「若い世代の「地域を守る意識」の醸成を目的とした防災士養成講座を開催し、将来の地域防災リーダーの育成を図る」ことを目的に令和4年度から開始しました。「若い世代」や「将来の地域防災リーダー」などとあるように、この取組みの背景には地域防災活動の中心となる自主防災組織の高齢化があります。自主防災組織の高齢化は多くの自治体で課題となっていると思いますが、高齢化率32%（R8.2月末現在）の本市もその例にもれず自主防災組織の若返りを図ることが急務となっていました。このような状況の中、当時、中学校で校長を務めておられたある先生の「その人生で必ず南海トラフ地震を経験する中学生に防災士の資格を取らせることはできないだろうか」という言葉をきっかけに「中学生防災士の養成」と「自主防災組織の活性化」が結びついたのです。

## 3 将来の 地域防災リーダー育成事業

「将来の地域防災リーダー育成事業」の具体的な内容とこれまでの実績をご紹介します。令和4年度から事業を開始して令和7年度までの4年間で203名の中学生が防災士養成講座を受講し、121名の防災士が誕生しました。本市の人口・45,461人（R8.2月末現在）のなかでの121人は非常に大きな数字だと感じています。また資格取得者に占める男性と女性の割合がほぼ等しい（55%：45%）

こともこの取組みの大きな特徴となっています（本市の自主防災会長の女性の割合：2.9%と比較すると一目瞭然）。「自主防災組織の高齢化」とあわせて防災活動への「女性の参画」や「女性の視点」を防災に取り入れることの重要性も従来から指摘されていますが、中学生を対象とした本事業では多くの女子生徒に参加していただき、「若い世代」と同時に「女性」である防災士が多く誕生しています。



防災士養成講座の受講風景

目的	○近い将来の発生が懸念される南海トラフ地震や頻発する豪雨災害等に対し地域防災力の向上を図るため、若い世代の「地域を守る意識」の醸成を目的とした防災士養成講座を開催し、将来の地域防災リーダーの育成を図る
対象者	○市立中学校（4校）の在校生 ○50～100人程度を募集
期待する効果	○市及び地域の防災力のアップ ○子どもたちの活躍の場の広がり ○地元愛のアップ ○地域のつながりのアップ ○市立中学校の魅力アップ
費用	○受講生の費用負担（受験料/登録料含む）なし ○高知県地域防災対策総合補助金（補助率1/2）を活用

将来の地域防災リーダー育成事業の概要

#### 4 《若者が誰でも防災士になれるまち・なんこく》を目指して

4年間の取組みを通じて誕生した多くの中

学生防災士たちは、地域や学校での防災活動に熱心に参加しています。令和7年年度に内閣府と共催で実施した避難所開設訓練では地域の方々と一緒に炊き出しブースで活躍してくれました。また民



避難所開設訓練で活躍する中学生防災士

生児童委員協議会の総会では「防災士の学びを活かして、地域とつながる防災会活動を考える」と題して二人の中学生防災士が取組み発表を行い、中学生と地域の連携の重要性を説くなどこの事業の目的を中学生たちは立派に実現してくれています。一方で防災士養成講座にチャレンジしたものの資格取得に至らなかった中学生もいます。中学生にとって貴重な夏休みの2日間を朝から夕方まで防災士養成講座に取り組んだ中学生たちの頑張りを何とか形にしたいと思い受講者全員に「NANKOKU防災アンバサダー」の称号を授与することにしました。

令和4年度から開始したこの事業で防災士養成講座を受講した中学生の中には高校を卒業して社会人や大学生になった方もいます。もしかしたら南国市を離れている方もいるかもしれませんが、この養成講座を受講した若者たちは、どこにいても災害時には必ず南国市のことを考えて行動してくれるに違いありません。紀貫之以前から連面と続いてきた南国市の長い歴史を「中学生防災士」たちが必ずや引き継いでくれることを確信しています。



南国市防災アンバサダーのバッヂ